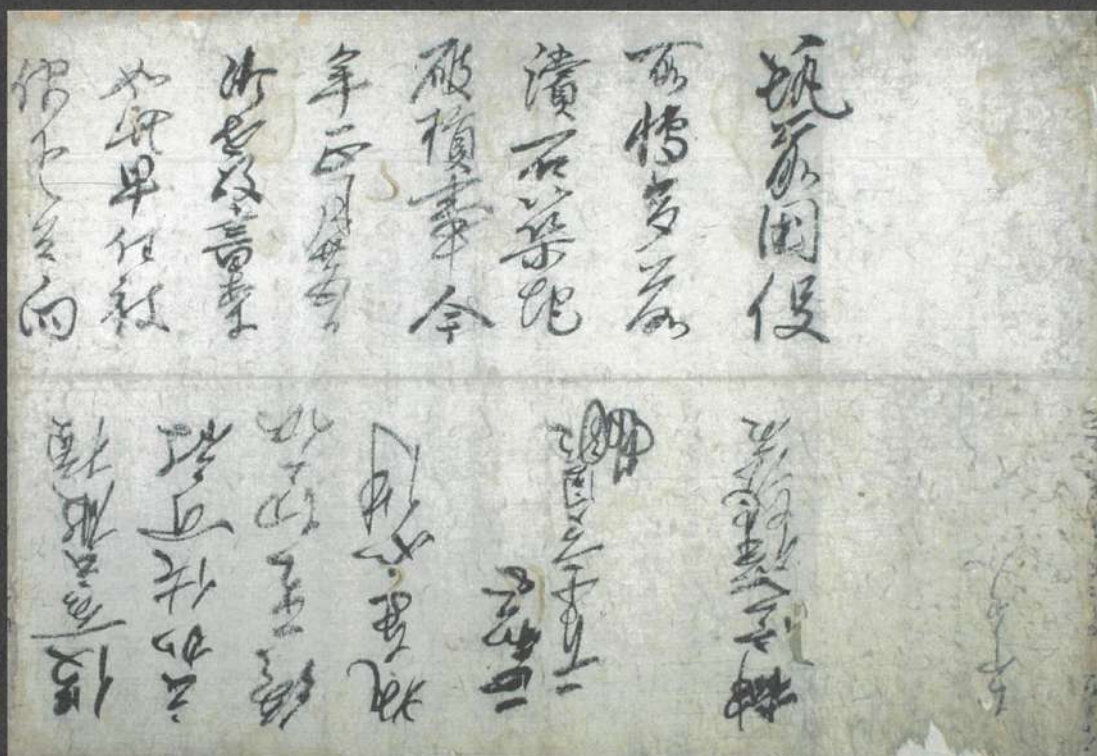


古文書だより

第4号



しょうにさだつねしぎょうじょう みょうほうじさかきもんじょ
少式貞経執行状 (明法寺櫛文書6)

明法寺所蔵／市指定文化財／総合図書館寄託

もくじ

令和6年度新収蔵資料

- 入江寿紀収集資料(一)2
- 三宅剛照資料(長春軒文庫)(二) ...3

収蔵資料の詳細目録

- 東長寺文書(五)3
- インフォメーション4

パネル展示「明法寺櫛文書の世界
—元寇防塁の修理についての文書—」



元寇防塁跡(生の松原)(2009) 写真提供：福岡市

パネル展示「明法寺櫛文書の世界－元寇防塁の修理についての文書－」

■福岡市指定文化財・明法寺櫛文書(みょうほうじ さかき もんじょ)は、福岡市早良区四箇(しか)の浄土真宗本願寺派明法寺住職・櫛氏が代々伝えてきた文書群です。鎌倉時代から戦国時代、正応2年(1289)から慶長8年(1603)までの文書45点が巻子5巻に仕立てられています。

■令和6年は、文永11年(1274)の蒙古襲来から750年にあたりました。福岡市内には元寇防塁跡があり、歴史的大事件・蒙古襲来の痕跡を間近に見ることができます。これにちなみ、元寇防塁の修理についての文書・少式貞経執行状(明法寺櫛文書6)【本誌表紙に写真掲載】を紹介するパネル展示を文書資料室で行いました。



遍照山 明法寺 (山門と鐘楼)



ホームページ
「古文書資料紹介」
もご覧ください



明法寺櫛文書 全5巻

■蒙古襲来を受けた鎌倉幕府は、博多湾沿岸に石積みの防壁「石築地(いしつじ)」を築くよう九州の御家人たちへ命じます。正和5年(1316)に少式貞経が櫛定禅に出した執行状は、「博多前浜石築地」の破損について、先の御教書で命じられるとおり早く修理等を行えというものです。

■歴史資料としての明法寺櫛文書の大切さは、江戸時代にはすでに学者たちに知られていました。福岡藩儒・貝原益軒らが編纂した地誌「筑前国続風土記」は、元寇防塁に関する記述中に少式貞経執行状を引用しています。

さて博多の海辺より東は箱崎、多々羅瀧、西は鳥飼の海辺、姪浜、生ノ松原、今津に至る迄石を築て、海つらは急に一丈より高く、こなたはのへにして、馬に騎ながら馳のほり、賊船を見おろして、さけ矢に射るやうにこしらへたり、此石築修理の事など、鎌倉より催促せし文書、当国処々に遺れり、(中略)此後いよいよ博多津の警固要害の営作おこたらず、此時博多警衛催促の文書等、国中処々にあり、一書に云、

筑前国役所博多前浜石築地破損之事、今年正月廿五日、御教書案如此、早任下被仰下候旨、向役所云破損云云加作、可被被終其功二候、仍執達如件、少式筑後守妙恵

正和五年二月十二日 貞経有判
櫛定禅地頭殿

是 花園院の御時、鎌倉將軍御教書の旨を以て、博多前浜石築地修補をなすへきよし下知の状也、

「筑前国続風土記」巻之二十四 古城古戦場一 那珂郡 博多古塁(部分)

蒙古襲来絵詞(模本)(九州大学附属図書館所蔵)部分



■鎌倉時代の石築地は、「蒙古襲来絵詞」に見ることができます。石積みの壁の上に肥後国の御家人菊池氏らが居並び、その前を馬に乗った竹崎季長(たけざき すえなが)らの一行が進んでいるこの場面。現在の福岡市西区生の松原(いきのまつばら)の情景を描くと考えられています。

■大正時代に始まった発掘調査に際し、医学者で考古学者の中山平次郎は、掘り出された石積みをも「元寇防塁」と名付けました。今日、博多湾沿岸の今津、今宿、生の松原、姪浜、西新、箱崎などに点在する防塁遺構は、国指定史跡「元寇防塁」として保存、整備されています。(三角)

古文書だより 第4号 発行日 令和7年(2025)3月31日

編集・発行 福岡市総合図書館 文学・映像課 古文書係

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

TEL 092-852-0634 FAX 092-852-0609 URL <https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

本誌に掲載の画像は無断転載を禁じます。ご利用方法はこちら

ホームページ「文書資料室」



「古文書だより」の最新号やバックナンバーはこちら

ホームページ「古文書だより」

